

二〇二〇年一月一日(参加者二名)

解体の跡広びろとうそ寒し たか子

木の実独楽舞はす器用も不器用も 満天

うそ寒し乗り換へ電車間に合はず よう子

夕散歩木の実と分かる足裏かな よう子

うそ寒や視線合はせぬ羅漢像 素秀

抽斗に夫の残せし木の実独楽 みづき

陵へ磴三百や木の実降る はく子

不意打ちの木の実に犬の絶叫す よう子

木道に音たて消えし木の実かな よう子

ヤシャブシの木の実集めてストラップ 明日香

おしゃべり楽し寺のぎんなん皆で剥く はく子

木の実独楽つつつと斜め走りかな 小袖

父親を本気にさせて木の実独楽 うつぎ

木の実落ち鯉の水輪に紛れけり かかし

農小屋は朽ちて屋根なし木の実降る 素秀

鍵明けて独りの暮らしそぞろ寒 宏虎

うそ寒や刃物六本研ぎに出す わかば

二つ三つ苔玉用に木の実埋め 明日香

銀杏の実を踏むまじとたたら踏む たか子

目に見えぬコロナウイルスうそ寒し うつぎ

どんぐりの釣り合ひよろしやじろべえ はく子

パソコンの指示に騙されうそ寒し たか子

木の実落つ音に振り向く山路かな 宏虎

WEB句会みのる選・二〇二〇年一月一日